



辰 新春

明けまして おめでとうございます。

健やかに新しい年を迎えられたことと存じます。本年が皆様にとり、健康で飛躍の年になりますようご祈念申し上げます。

いよいよ今年度を締めくくる最後の三学期となりました。一年間を振り返る時期でもあり、学習も日々の積み重ねが大きな力になっていきます。

「継続は力なり」というように、一つひとつ努力の積み重ねが大きな力になっていきます。あせらず大切にしてほしいです。

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る、というようにあわただしく三学期は過ぎていきます。新年度に向け、保護者の皆様、地域の皆様との連携・協力を密にし、進級・進学していく子どもたちの指導と支援に当たっていきたいと思います。

どうぞ、よろしく願いいたします。

11 住み続けられる
まちづくりを



ESD 未来へつなぐ防災

令和6年1月15日(月)～19日(金) 防災週間

新しい年を迎えたばかりの日の夕刻に生じた能登半島地震。どうしても、まさか・・・とってしまいます。

能登半島地震により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますと共にご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

始業式の冒頭、子どもたちも心の中で被災された方々へ励ましの言葉を伝えました。

今年度、四年生は、地殻変動に対して自分の身だけではなく多くの人の命を守る「防災サバイバー」をテーマにしたESD学習に取り組んでいます。陸前高田市立高田小学校の子どもたちとオンラインで協働学習を行い、3・11東日本大震災の教訓をもとに新たな防災の在り方について、具体的な取り組み等を情報共有し、ESD学習発表会で地震が起こってもその被害を最小限に抑える行動について呼びかけました。

まさに、今、私たちは、防災サバイバーとして、できることを考えて行動しなければなりません。

防災学習

今年も、防災週間に、防災の大切さや地震に関する知識を学ぶ機会として、京都大学防災研究所の先生方をお招きし、全校朝会で阪神淡路大震災当時の記録映像を視聴したり、本校に設置している地震計についてのお話しを伺ったりする予定です。さらに、六年生には、理科で「震度とマグニチュード」について授業をして頂きます。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



け継ぎたい地域遺産

豊中市指定文化財

上新田天神社とんと祭

とんど祭りとは、旧年のお札や正月飾り、しめ縄などを火焚きし、その年の豊作・無病息災などを祈って行われる火焚きの伝統行事です。上新田地域では、毎年、一月になると天神社の社殿前広場で「とんど祭」が開催されてきました。地域の方は、この日を迎えるにあたり、地元の竹を切り出し、その竹で櫓を組み大量の藁を組み込んでいくという大変な労力を伴う準備に当たっておられました。

ところが、近代社会へと世の中が大きく変化する中、農地が住宅地に変わり、「とんど祭り」に必要となる天日干しの大量の藁が手に入らなくなってきました。それでも、「とんど祭り」を絶やさず守りたいという地域の方の願いによって、遠方から大量の藁を調達することで伝統文化を守ってこられたのです。

「とんど祭り」が始まるとパーンパーン、ジリジリと竹や藁が熱で弾ける音が、上新田に響きます。漆黒の夜空に燃え上がる炎やもくもくと舞い上がる白い煙等々が、参加する人々を幽玄な世界と誘います。

上新田地区が開かれ 397 年、この間、時代を生きた人々により大切に受け継がれている「とんど祭」、まさに地域の宝であり誇りです。時代が大きく変わっても、受け継ぎ、守り続けたい文化の一つです。しかし、一方で、継承する難しさもあることを私たちは忘れてはならないと思うのです。



本校の ESD カリキュラムでは、中学年が地域遺産学習に取り組み、地域とつながりながら郷土「上新田」への愛着を育む学習を行っています。

メジャーリーガー大谷翔平選手から 「野球しようぜ！」

去年の12月26日に大谷翔平さんから、メッセージが添えられたグローブ3個が送られてきました。

始業式で紹介したあと、全クラス、順番に体育の時間等で子どもたちに使ってもらう予定です。



12 つくる責任
つかう責任



もったいないです！

大量の落し物

落し物コーナーを見ると私の心には何時も「MOTTAINAI」という言葉が浮かびあがってきます。この「MOTTAINAI」には、「物の持つ本来の価値を失くしてしまうことが惜しい」という意味が含まれています。

私たちが、普段何気なく使っている「もったいない」を「MOTTAINAI」として世界に通じる言葉にしたのが、2004年のノーベル平和賞を受賞したワンガリー・マータイ（ケニア出身）さんです。また、環境分野でのノーベル賞受賞もマータイさんが初めてです。それだけ世界の人々は、環境問題を重要な未来社会の課題だと考えているのです。

以前に「もったいない」について、公民分館の研修会でお話をしましたが、今一度、この言葉が持つ意味について子どもたちに話をしてみようと思います。

ご家庭でも、物を大切にすることについてお話をいただければ幸いに存じます。